



2024(令和6)年3月16日 福井2教賀まで開業

新幹線がやってくる!

「ふくい修学旅行」～よみがえる瞬間(とき)～ 企画展：令和5年10月7日(土)～12月17日(日)



修学旅行の始まり

「イチヨウの精子」の存在を世界で初めて顕微鏡で発見した、福井出身の平瀬作五郎は、東大に採用される前は岐阜で教員をしていました。

一八八五(明治18)年、福井に帰省した際、敦賀港で汽船を初めて見ました。その見聞を学校に戻り、生徒に話しても海や船を見たことがないので理解できませんでした。

そこで平瀬は、生徒を引率して「百聞は一見にしかず」とばかり旅行を実施。各々見聞した成果を歴史部・地理部などにまとめさせました。

後に森有礼文部大臣が、その紀行記を激賞した記録も残っています。最初の修学旅行としては、東京の高等師範学校の記録(明治19年)がありますが、それより古いこの旅行が最初の修学旅行ではないかと言う説もあります。

福井初の修学旅行?

一八九〇(明治23)年4月

に、福井尋常中学校の生徒たちが東京へ修学旅行に出かけました。当時まだ、福井まで鉄道が開通していなかったのが敦賀まで一日半歩き、行きは米原まで汽車、その後徒歩と船で四日市・横浜経由で四日間かけて上京しました。東京では内国勸業博覧会を見学した後、当時帝国大学初代総長であった渡辺洪基(現・越前市出身)に面会、また福井藩16代藩主の松平慶永(春嶽)(この年の6月亡くなる)にも面会して激励を受けています。東京には8泊し、帰りは陸路を新橋、名古屋、米原、敦賀と鉄道を使いました。福井へは、徒歩で一日半かけ途中大雨に遭いようやく戻りました。これが東京へ初の14日間の修学旅行の様子です。

夜行列車で上京!

東海道新幹線が開通するまで、関東方面への修学旅行は信越線経由で上野着か、東海道線経由で品川着の夜行列車が主でした。

一九六三(昭和38)年の福井市明道中学校の学校新聞には、その日程と修学旅行の思い出が綴られています。

ふくいの修学旅行

～よみがえる瞬間～

令和5年10月7日(土)～12月17日(日)

開館時間：9:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日：月曜日(祝日は除く)・祝日の翌日(10/10、11/24)

県内では、明治中期から修学旅行が実施された記録がありますが、時代とともに、また校種によって行き先や目的は大きく変わってきました。今回の企画展では、明治時

日	程
9月12日	福井(18 08)臨時列車…13日(6. 15)品川(7. 00)皇居=靖国神社=(8. 40)明治神宮-参拝-(9. 20)=国会
9月13日	タワー(11. 00)=三越(13. 30)=浅草=(14. 30)上野動物園=(16. 20)学生会館-夜の観光(19. 00) ナイター(21. 00)
9月14日	B班 学生会館(7. 20)=羽田(10. 30)=横浜(11. 00)=大仏マリンランド(14. 00)=小田原-工場見学(16. 30)=高原ホテル
9月15日	(8. 00)高原ホテル=大湖谷(9. 30)=湖尻(10. 00)=元箱根=関所跡=(11. 10)十国峠…頂上…十国峠(12. 30)
9月16日	伊豆スカイライン=(14. 00)文室高原=シャボテン園(15. 30)=伊東=(17. 30)熱海バスプール…駅(18. 34)…福井(4. 56)

修学旅行の思い出「車中で」夕方6時8分、列車は福井駅を発車、多数の父兄が笑顔で手を振っている。短い時間ではあるが、別れの光景である。列車に乗り、制服を体操ズボンなどに着替える。(略)電灯が消え、寝る時間がきた。全然寝られない。列車は一生懸命眠ろうとしている人々を乗せて、東京へ向かっている。こうして僕たちは朝早く、品川駅に着いたのだった。

代から現代まで、福井の子供たちが体験した修学旅行についてご紹介します。※関連イベント「記念講演会」「ミニ新幹線体験」など詳細はHPでご確認ください。